

赤十字おおやま

NO. **10**

Okayama Chapter



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



終戦から75年、救護員としての赤十字看護師の“昔と今”



赤十字の看護師は、 いつの時代もいのちを救う活動を続けています。

赤十字の看護師は、「苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づいて、看護を実践してきました。令和2年、終戦から75年を迎えた今も、苦しんでいる人を救う活動を続けています。

Column

看護技術を学び 救護にあたった婦人たち

日本赤十字社は救護看護婦の養成に先立って、有志の貴婦人を中心に構成される「篤志看護婦人会」を結成し、看護技術を身に付けた女性達が戦傷病者の救護にあたりました。

写真は、



災害時には、避難所等での診療やこころのケアを行います。

災害時の救護活動で看護師としての力を発揮できるように、日ごろから訓練や準備を行っています。

いま、私たちができること

新型コロナウイルスによる感染症は、世界中で猛威を振るっています。

自分自身や大切な人をウイルスから守るために大切なことは、①人と身体的距離をとることにより接触を減らすこと、②マスクを着用すること、③手洗いをすることです。また、飛沫感染や接触感染、さらには近距離での会話への対策など、日常生活の中で私たちができることを実践していきましょう。

日本赤十字社岡山県支部の新型コロナウイルス感染拡大防止に関する取り組み

下記は取り組みの一部です。

「正しい手洗い動画」等の制作



新型コロナウイルス感染症予防として、手洗い・マスク着用の重要性が挙げられています。岡山県赤十字有功会、RSK山陽放送、岡山シーガルズのご協力を得て、動画を制作しました。

この動画は日本赤十字社岡山県支部YouTubeで配信中のほか、ホームページからダウンロード可能です。



対面用スクリーンの整備



新型コロナウイルスの感染拡大防止、来庁者や職員の方々の飛沫感染防止等を目的としてアクリル製の「対面用スクリーン」600セットを調達し県内の保健所や全市町村の赤十字担当窓口等へ整備しました。

『令和2年7月豪雨災害義援金』

令和2年7月3日からの大雨により被災された方々に、心よりお見舞いを申し上げます。

甚大な被害に見舞われた被災者の方々を支援するため、日本赤十字社では義援金を受け付けてます。

岡山県内においては中国銀行・トマト銀行の本支店、各市区町村の赤十字担当窓口、各赤十字施設において義援金をお受けしています。皆さまの温かいご支援をお願いします。



人吉市内の避難所にて診療を行う赤十字職員

義援金についての詳細はホームページから

日本赤十字社岡山県支部

検索